

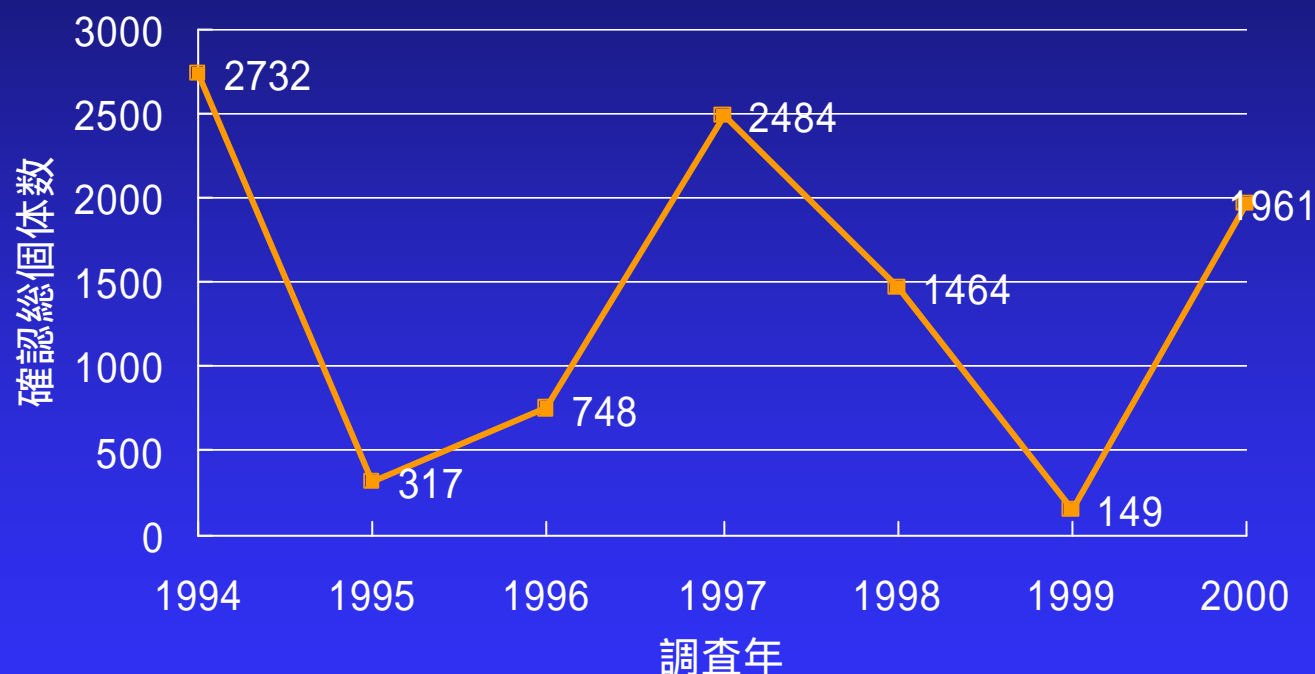
2.特徴的な種

2.1 イタセンパラ

絶滅危惧種であり 国の天然記念物にも指定されています。



城北ワンドにおける仔稚魚の変化



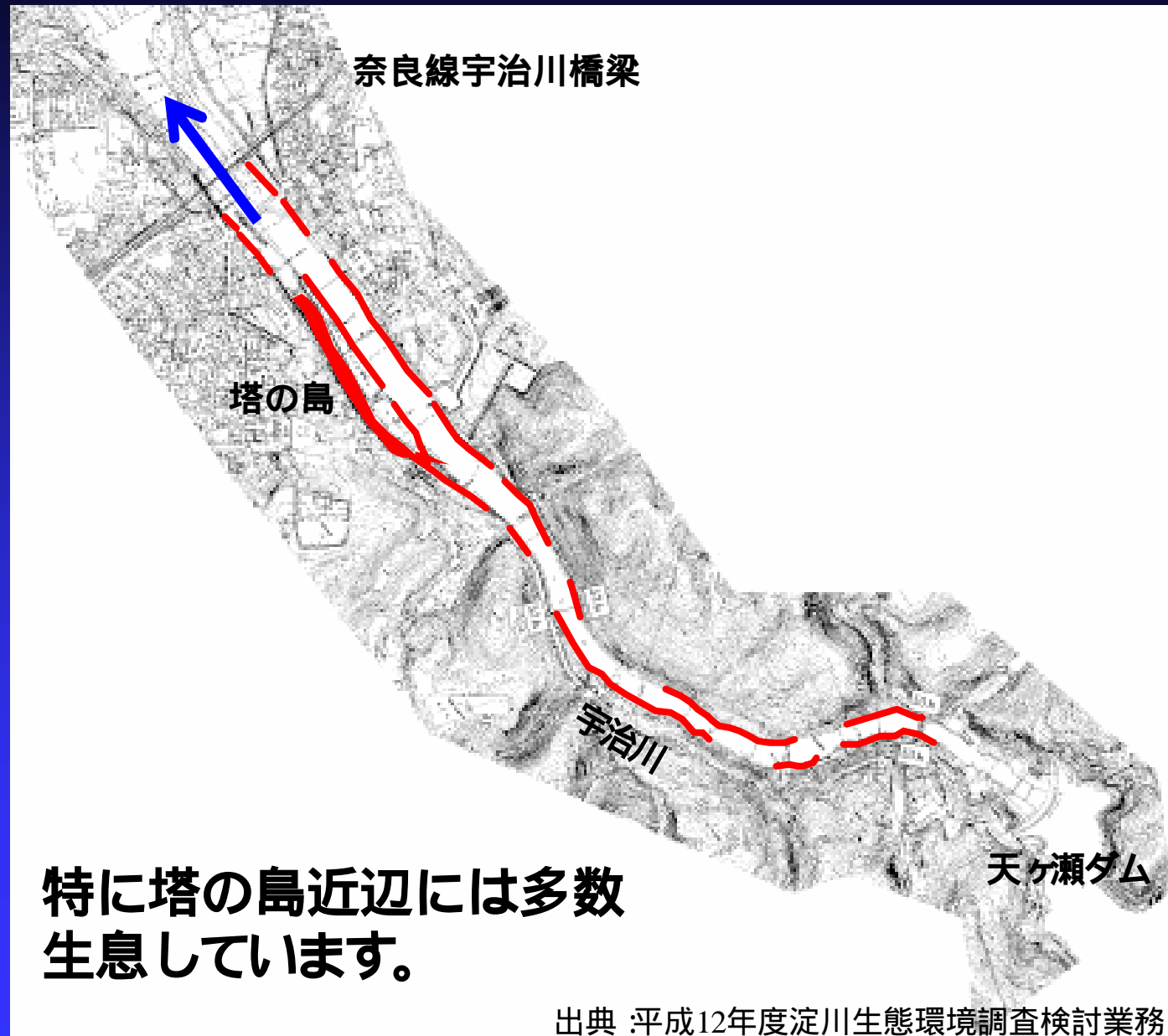
絶滅危惧種であるイタセンパラの仔稚魚の確認数は年毎に大きく変動しています。

2.2 ナカセコカワニナ

琵琶湖・淀川の固有種であり、絶滅危惧類（絶滅する可能性が最も高い種）に指定されています。



2.2 ナカセコカワニナ



2.3 セタシジミ

琵琶湖の固有種であり、絶滅危惧類に指定されています。

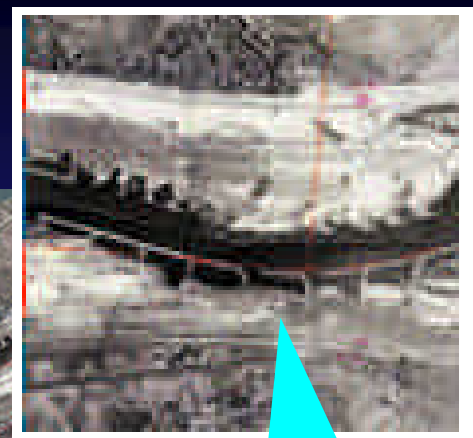
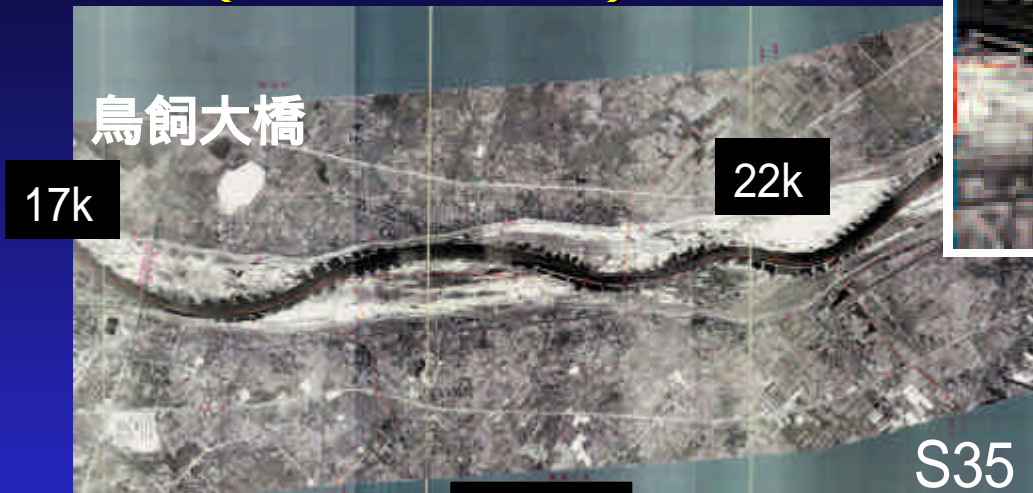


減少傾向にあったセタシジミですが、最近はやや増加傾向に転じています。

3. 生息環境の現状

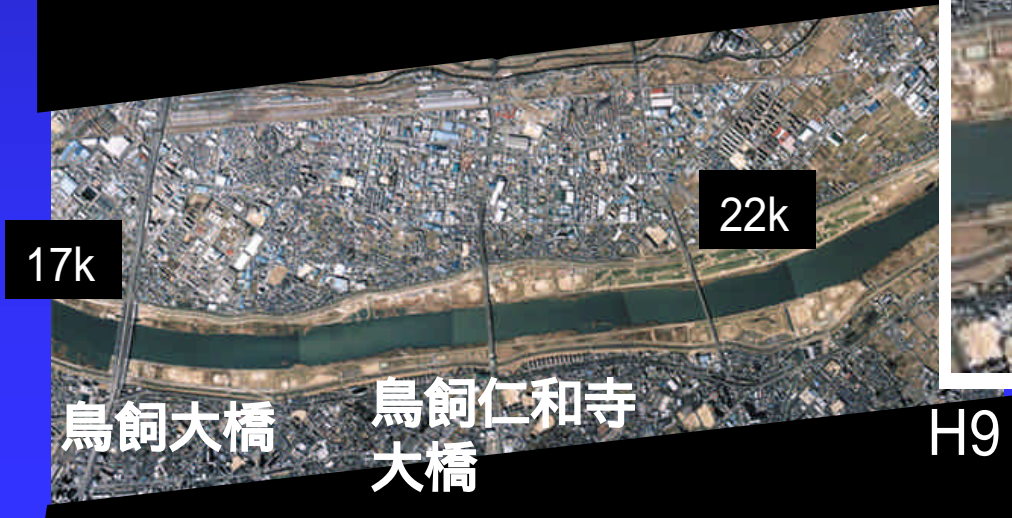
3.1 河川環境の変化

低水路改修（縦断面変化）

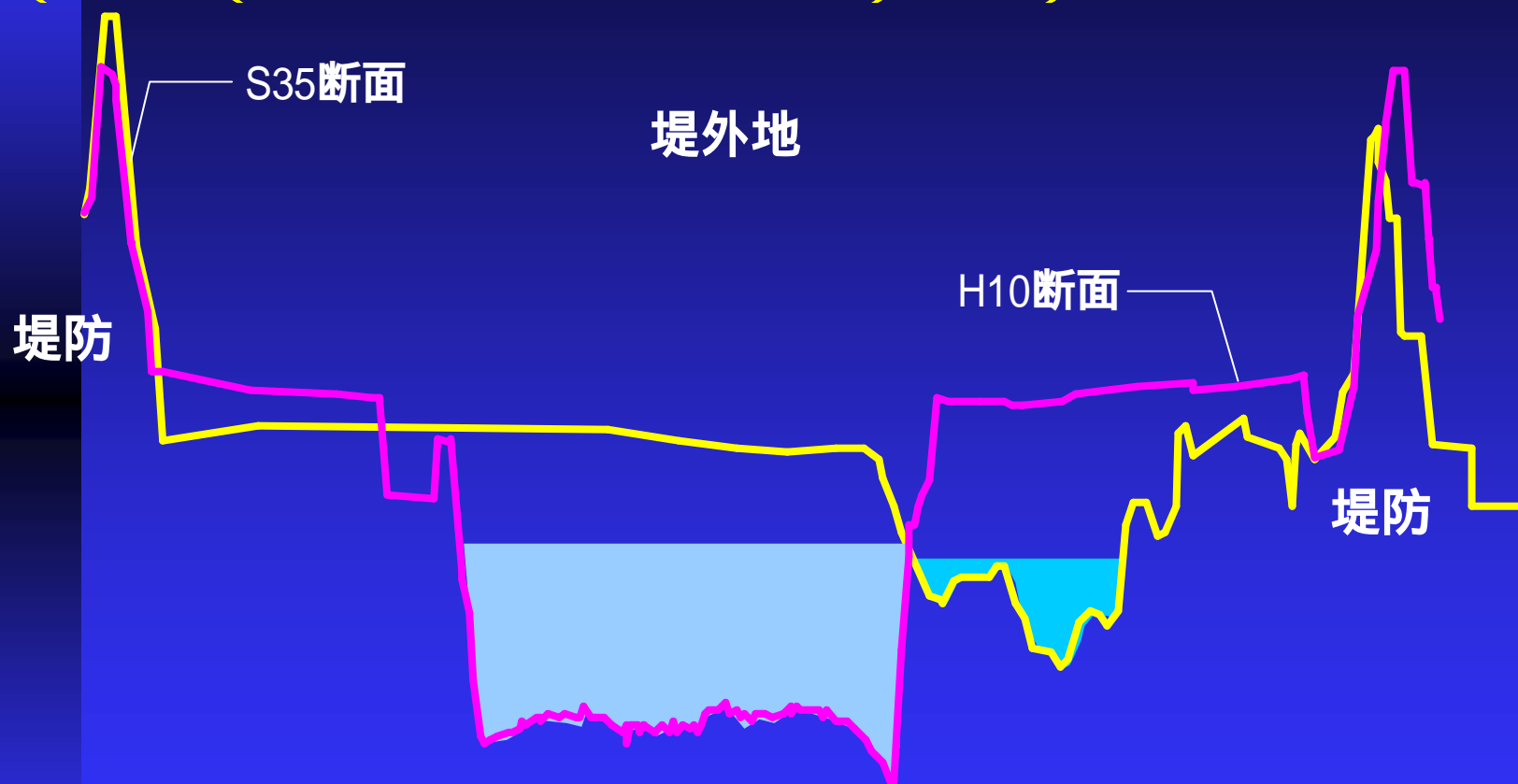


水制工の消失

低水路の直線化、護岸整備、低水路断面の拡大、高水敷の造成、河床掘削



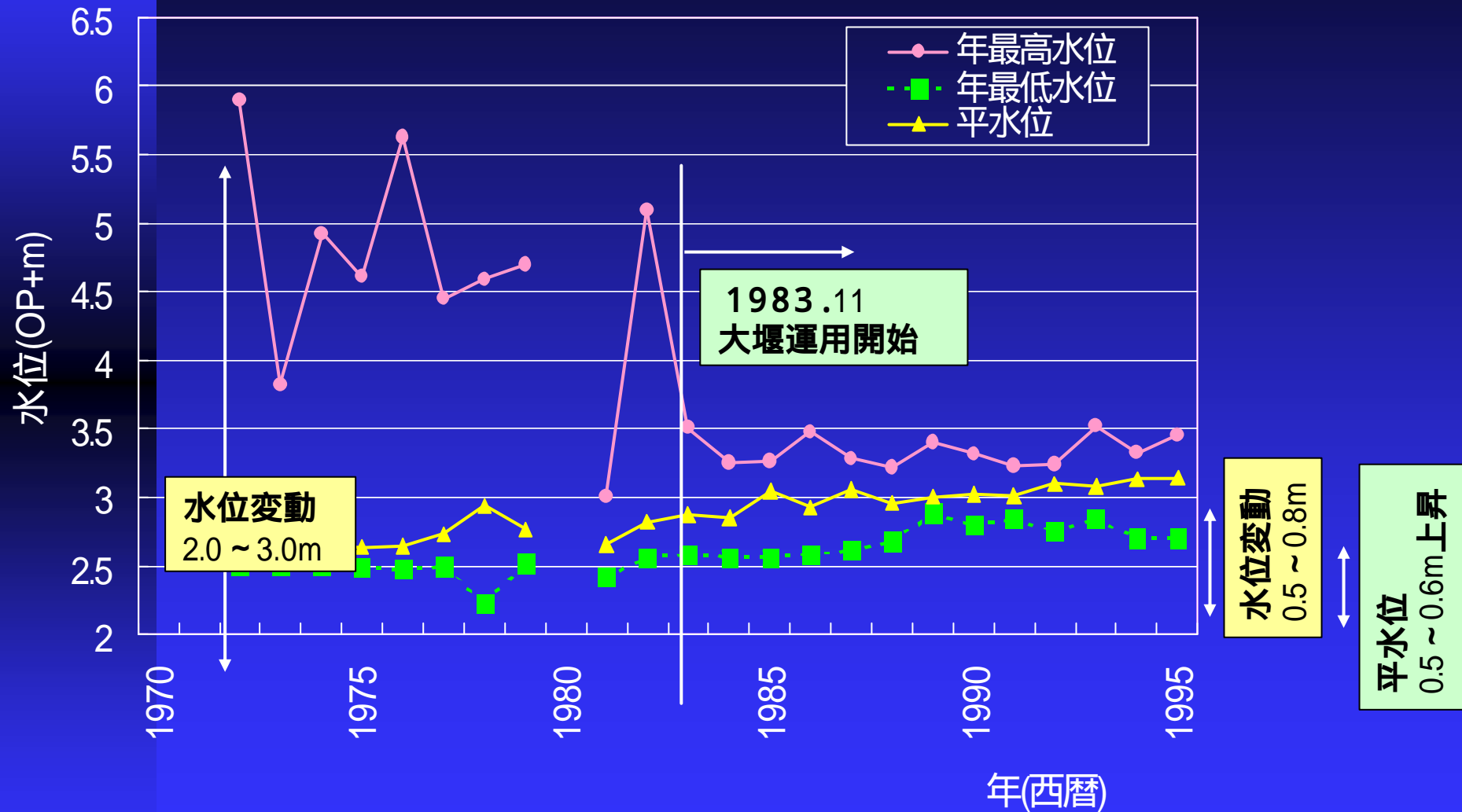
3.1 河川環境の変化 低水路改修 (横断面変化) (19.8K (鳥飼仁和寺大橋下流) 地点)



淀川全体に渡って、このような低水路改修が
実施され、法面が急になり浅域が減少しました。

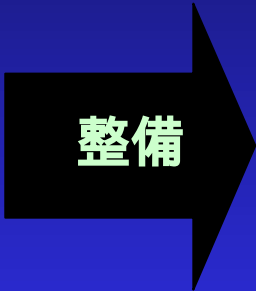
3.1 河川環境の変化 低水路改修 及び

大堰の改築



水位が上昇し、水位変動が減少しました。

3.1 河川環境の変化 高水敷の整備



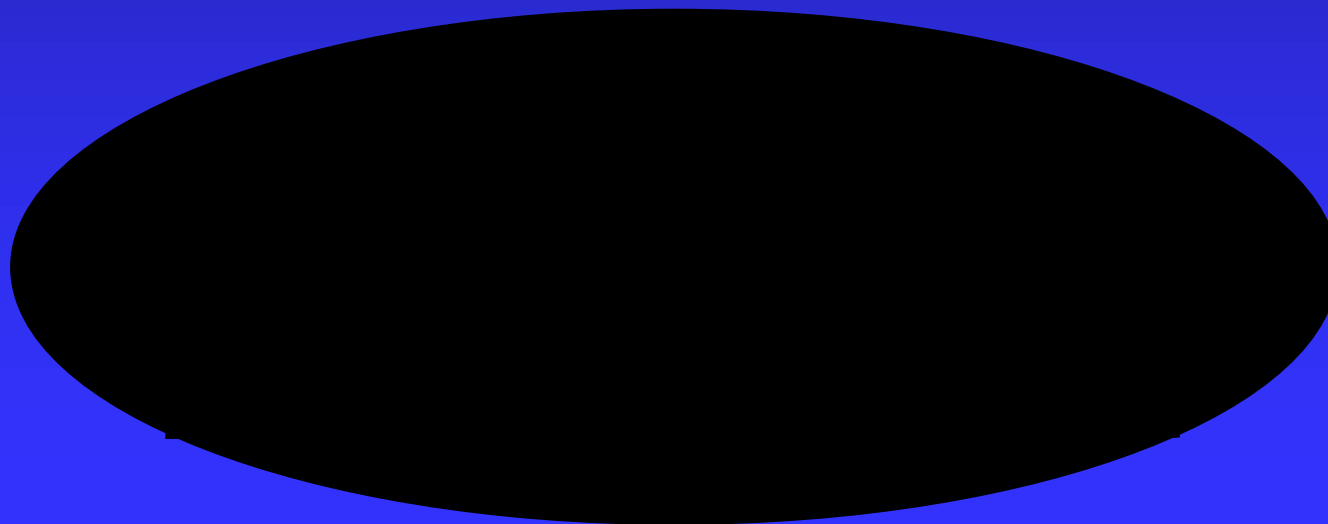
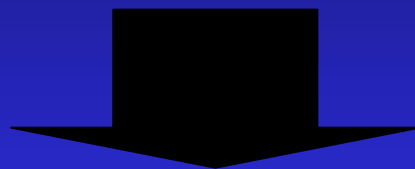
3.1 河川環境の変化

低水路改修

淀川大堰の改築

高水敷の整備

等による環境の変化



3.2 生息環境の現状



4.特徴的な生息環境

4.0 ワンド たまりとは

ワンド



たまり



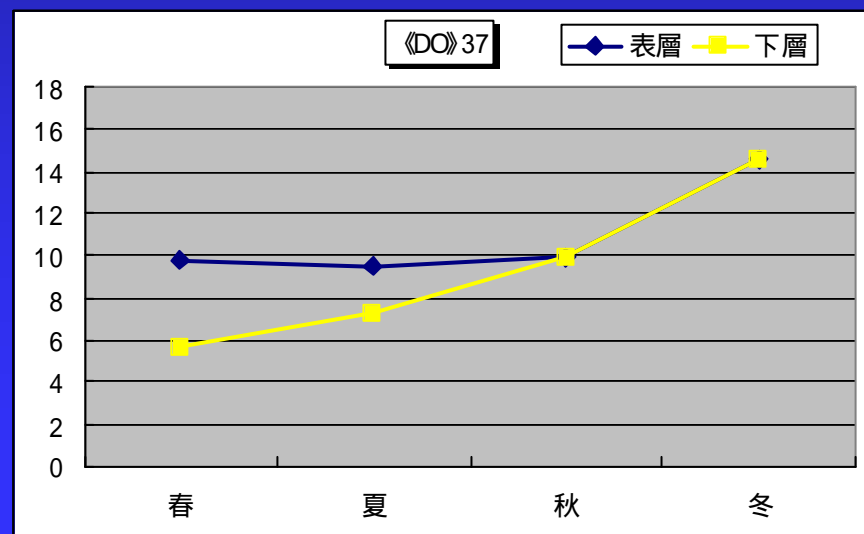
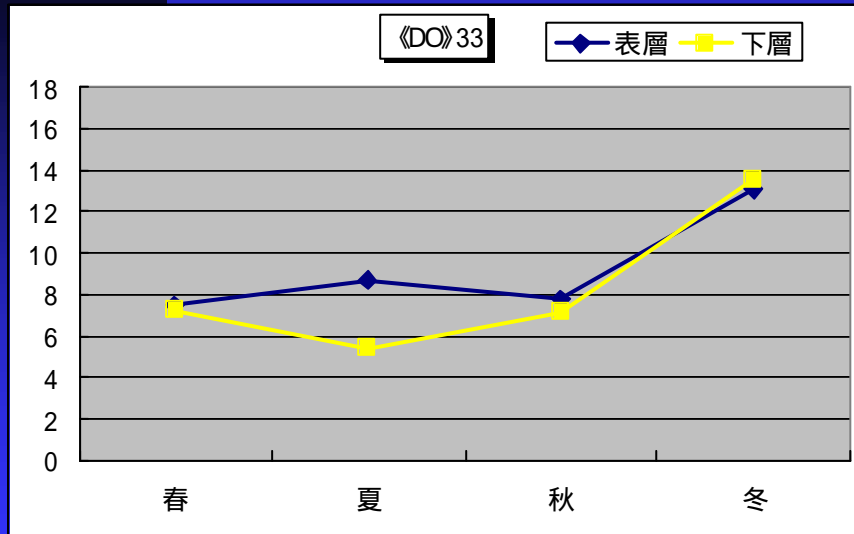
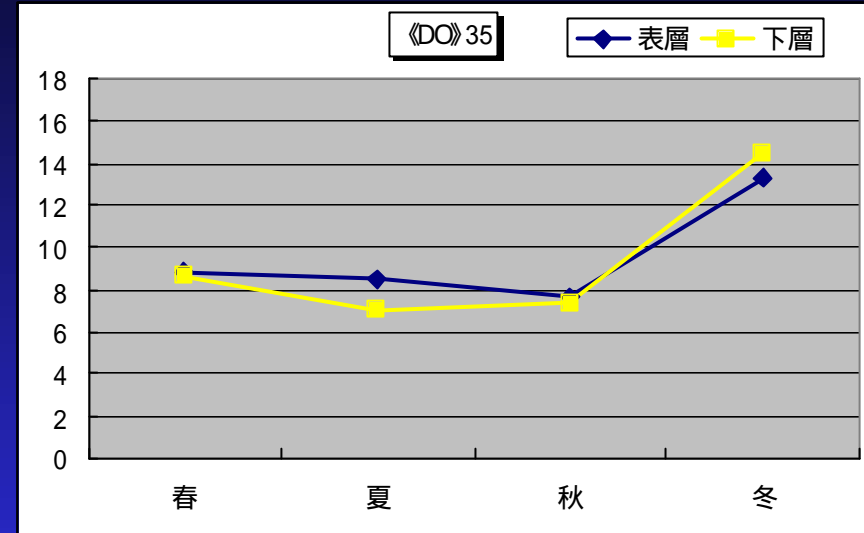
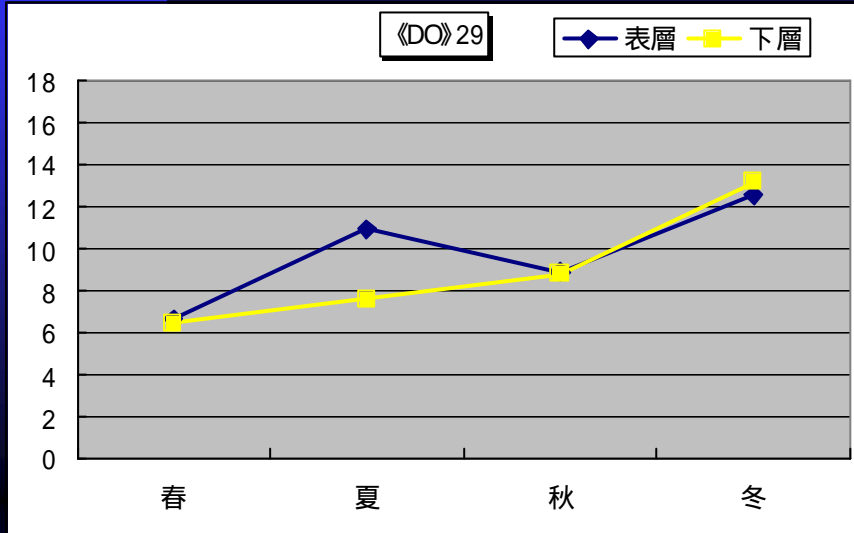
ワンド:低水路を固定する水制工に流送土砂が堆積し、生じた池。

たまり :河川や砂州上にある水たまり。

4.1 望ましい水質基準 (DO,SS) の達成状況

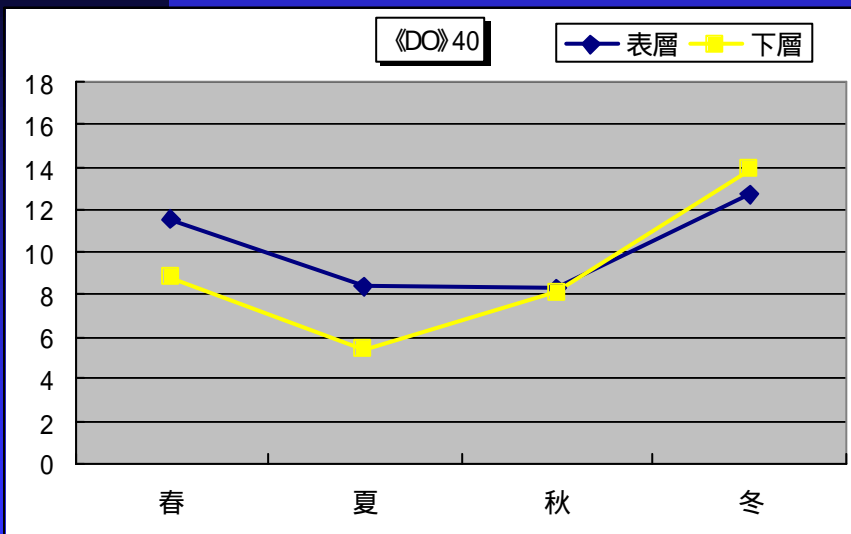
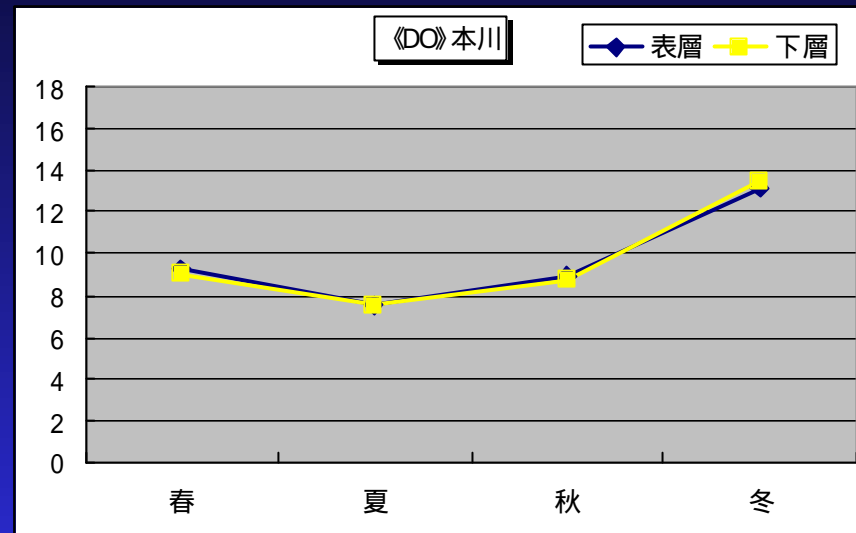
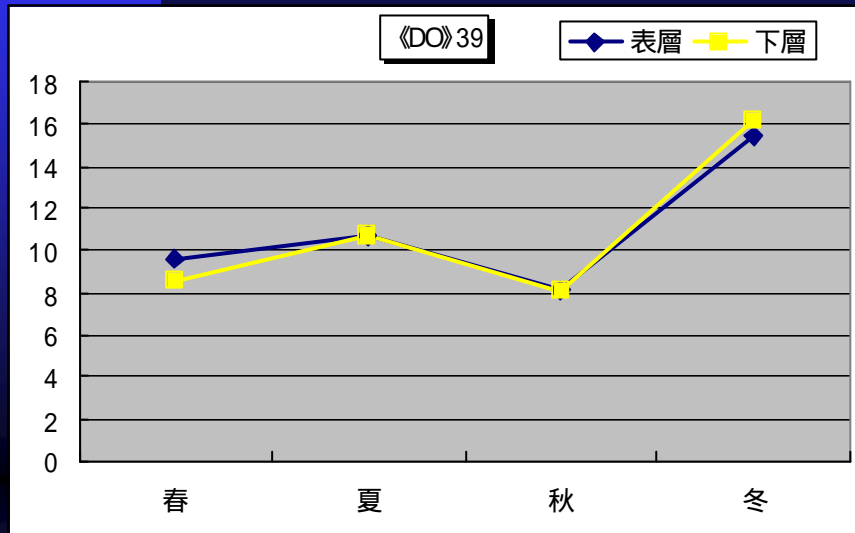
【 PondにおけるDOの季節変化】

表層 : 水面から20 cm
 下層 : 池底から50 cm



4.1 望ましい水質基準 (DO,SS) の達成状況 【ワンドにおけるDOの季節変化】

表層 : 水面から20 cm
下層 : 池底から50 cm

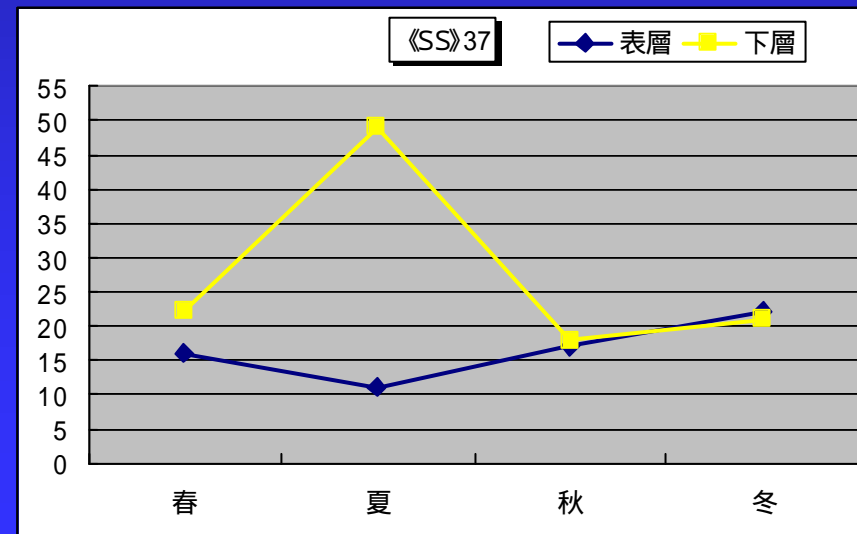
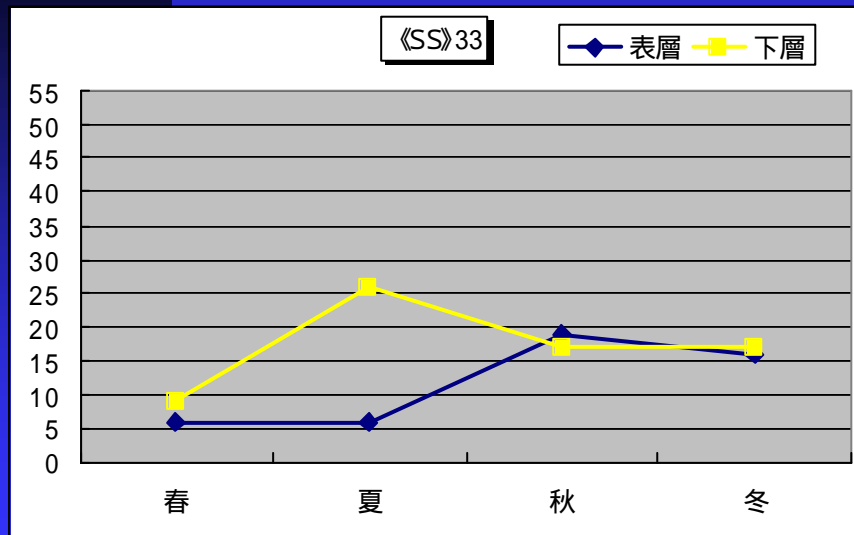
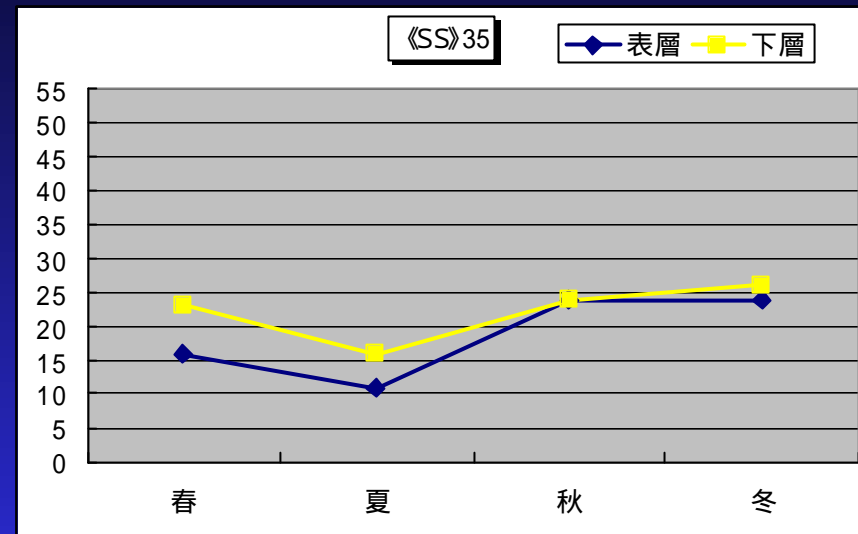
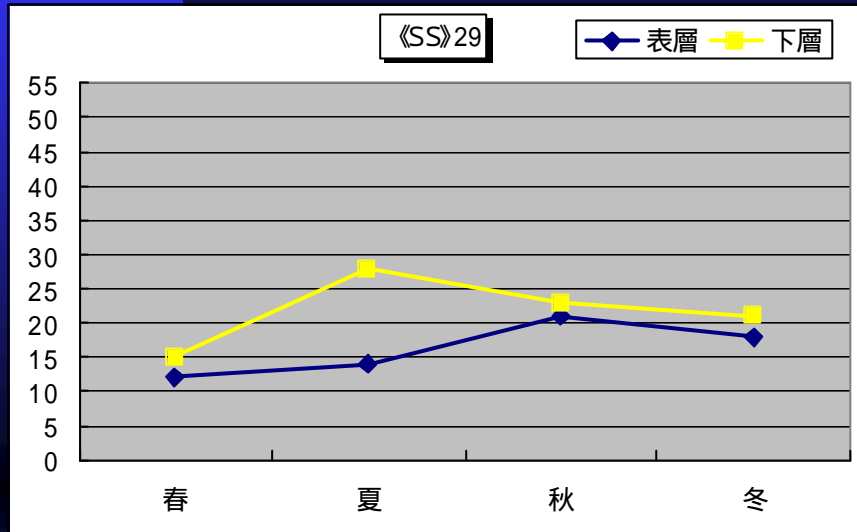


ワンドによってDO値は多少異なるものの、魚介類が生息するために必要な溶存酸素量 (3mg/l以上) は達成しています。

4.1 望ましい水質基準 (DO,SS) の達成状況

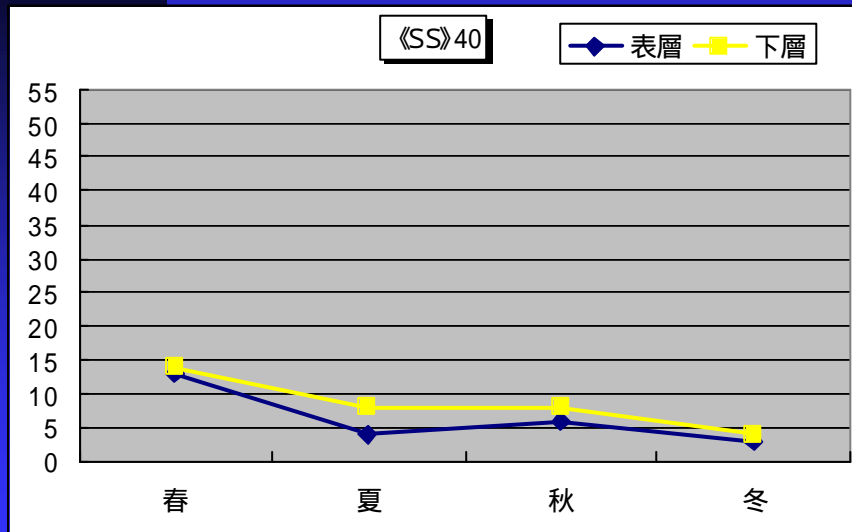
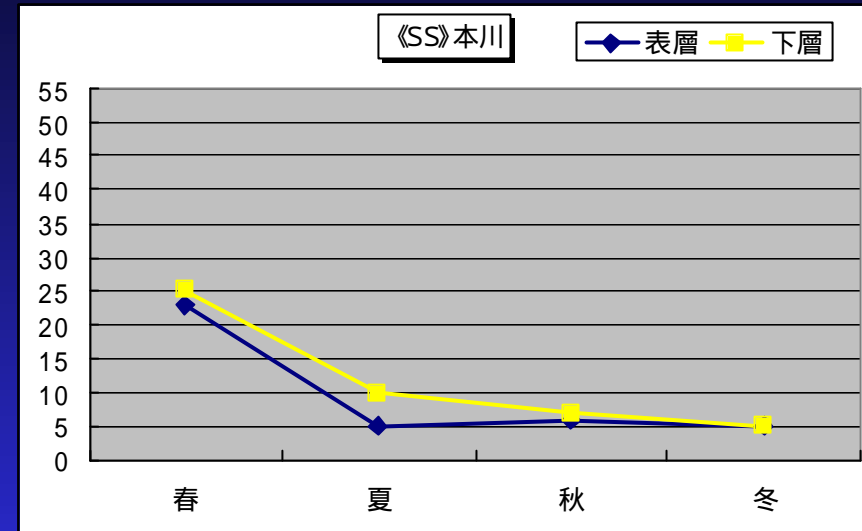
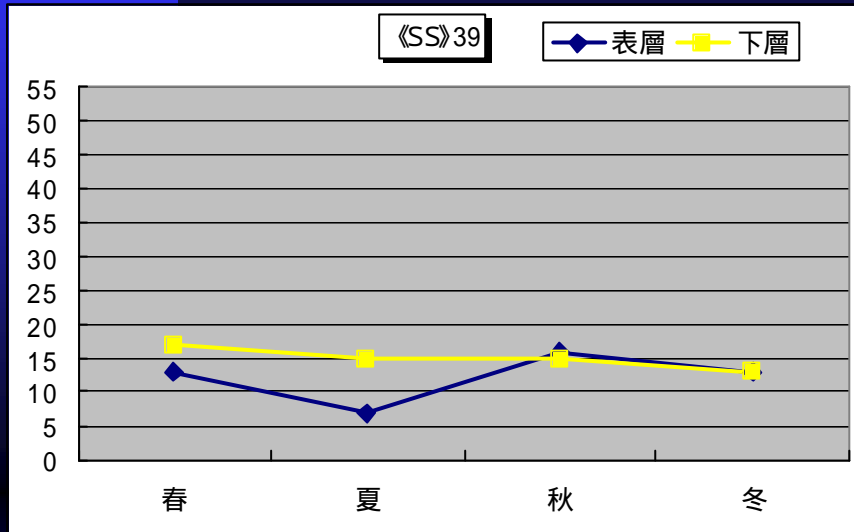
【 PondにおけるSSの季節変化】

表層 : 水面から20 cm
下層 : 池底から50 cm



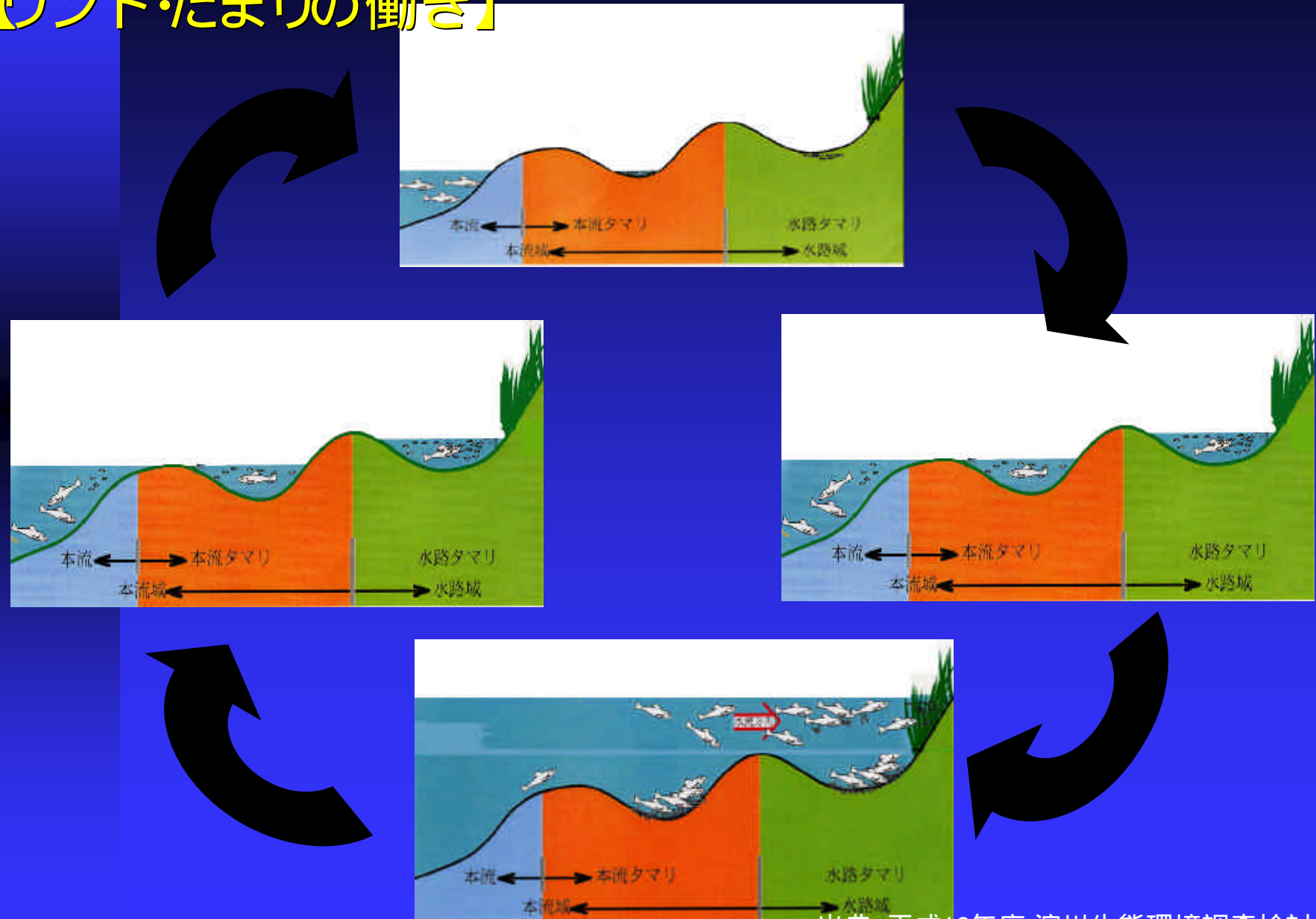
4.1 望ましい水質基準 (DO,SS) の達成状況 【ワンドにおけるSSの季節変化】

表層 : 水面から20 cm
下層 : 池底から50 cm

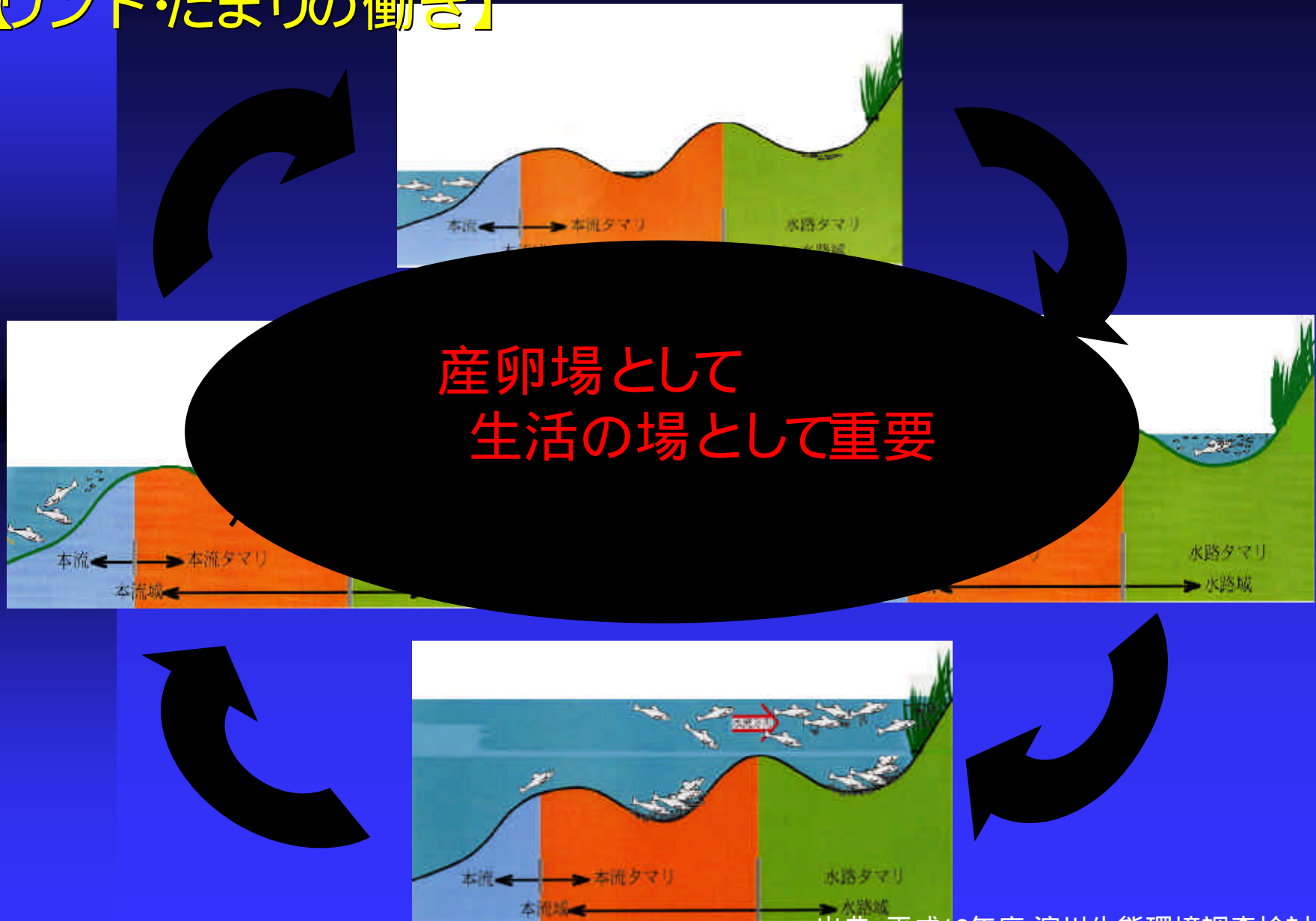


ワンドによってSS値は大きく異なっています。

4.2 ワンドたまり 【ワンド・たまりの働き】



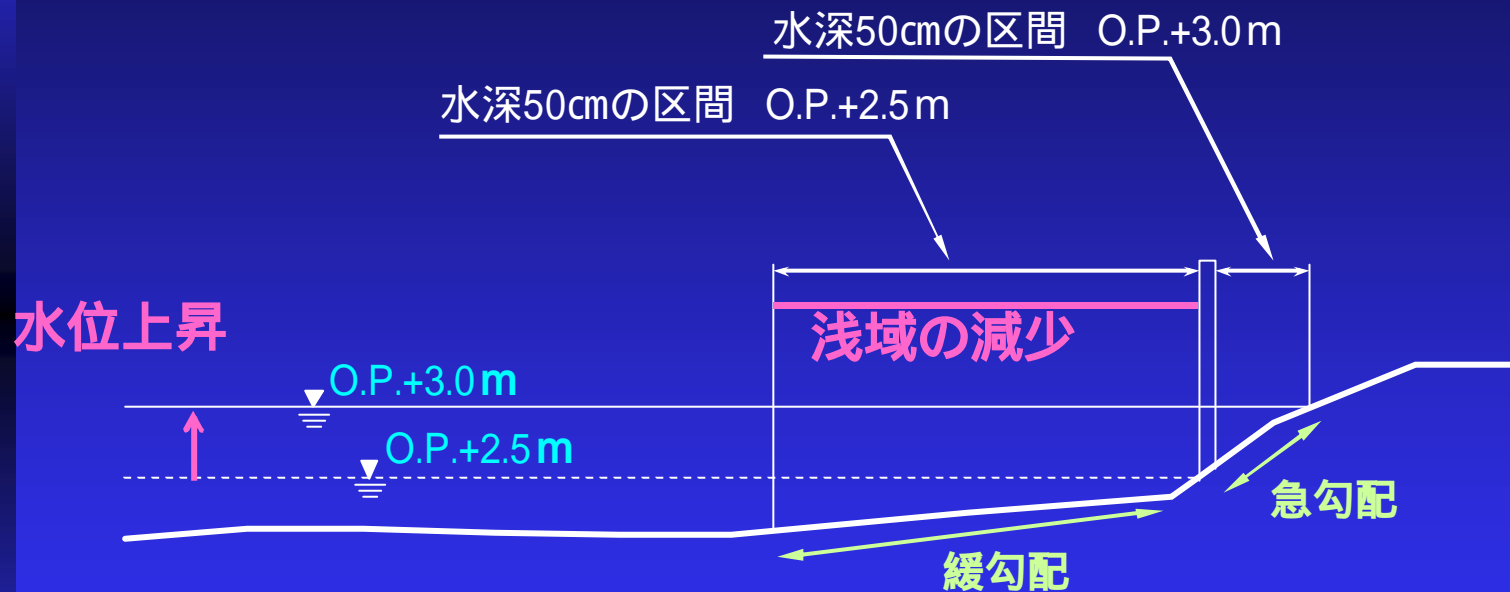
4.2 ワンドたまり 【ワンド・たまりの働き】



4.2 ワンド・たまり

【ワンドにおける河川環境の変化】

- 水位上昇による浅域の減少 -



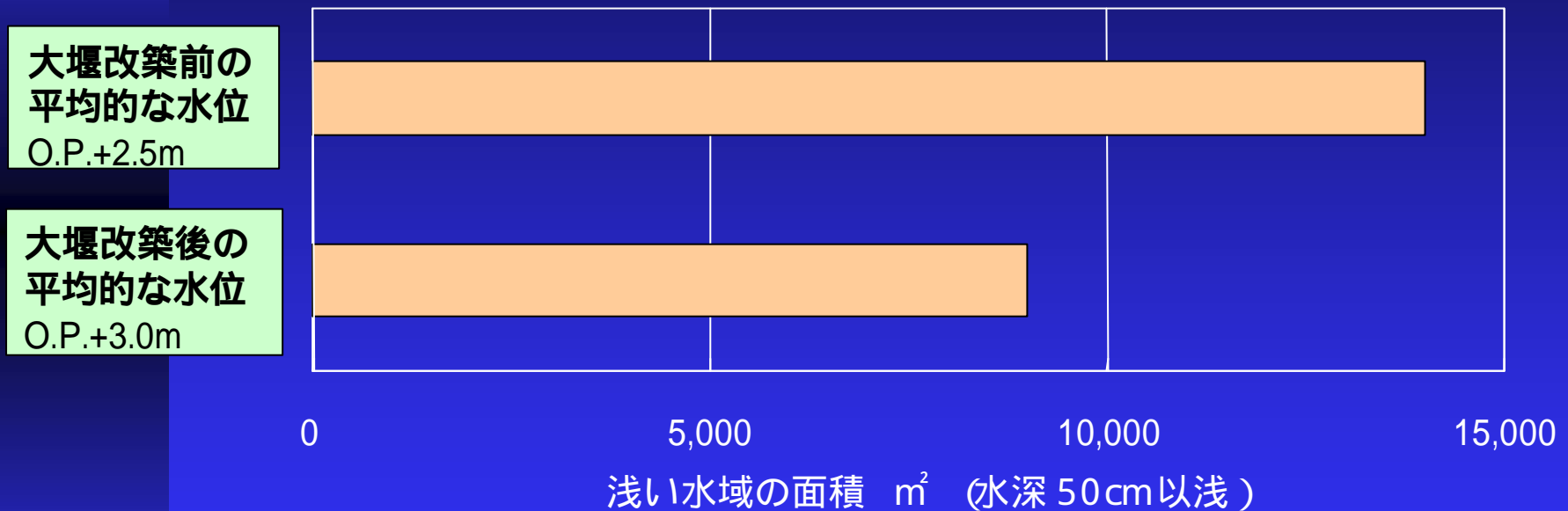
大堰の改築で水位が上昇し浅域が減少しました。

4.2 ワンド・たまり

【ワンドにおける河川環境の変化】

- 水位上昇による浅域の減少 -

城北ワンド群



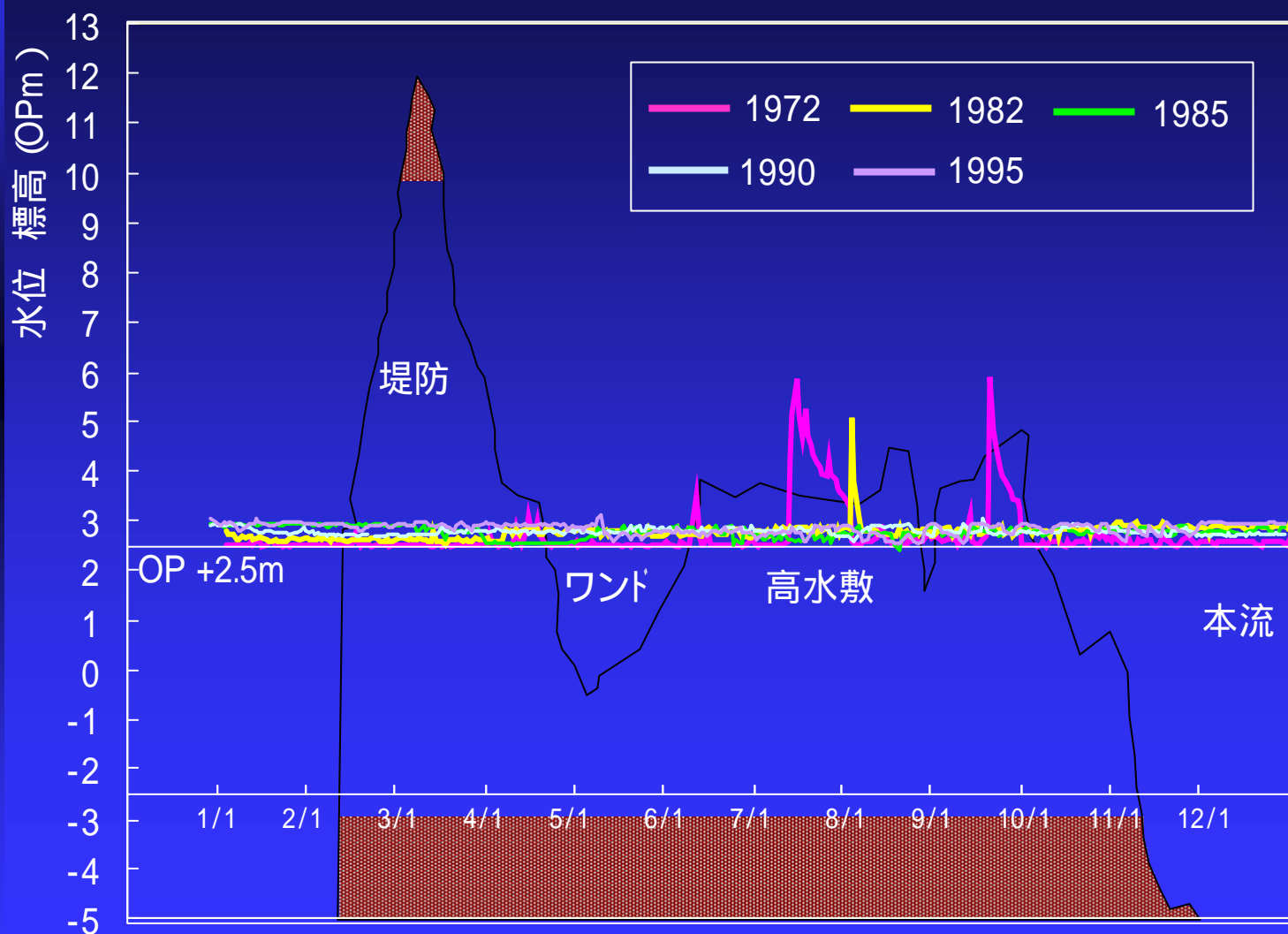
出典 :平成12年度 淀川生態環境調査検討業務

平常時水位の上昇により、浅い水域の面積約 5,000m²減少 (ワンド1個分に相当)

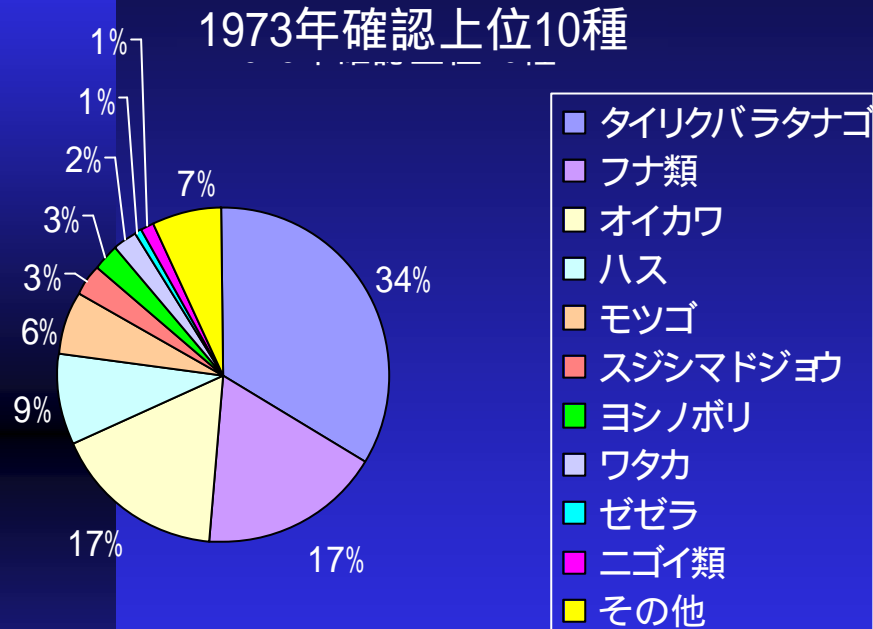
4.2 ワンド・たまり

【ワンドにおける河川環境の変化】

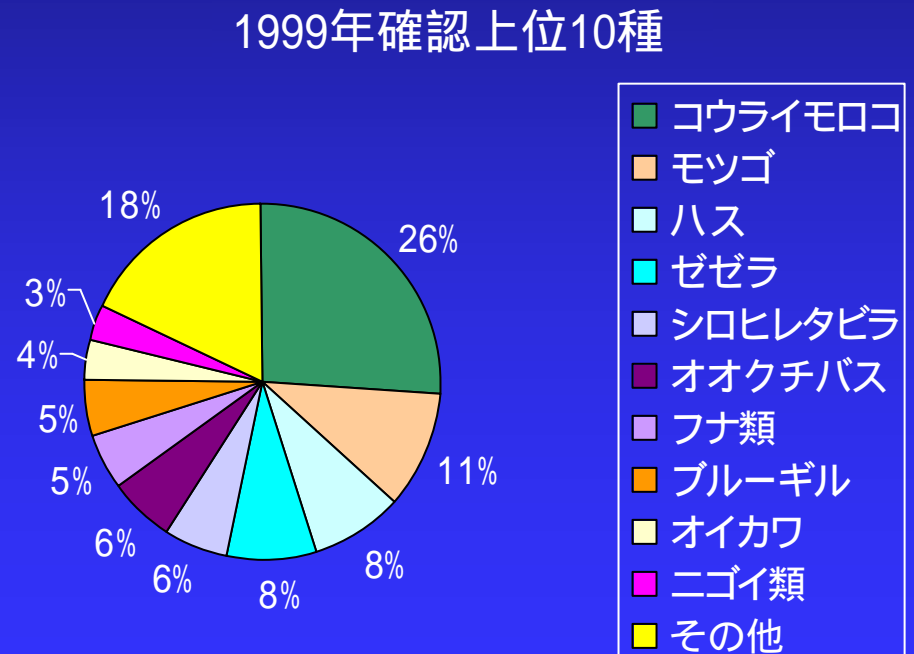
- 水位安定と河床掘削による冠水頻度の減少 -



4.2 ワンド・たまり 【城北ワンドの魚類相変化】



魚類相は新たにブルーギルやオオクチバスが確認される等、魚類相は大きく変化しました。



出典：平成12年度 淀川生態環境調査検討業務

4.2 ワンド・たまり 城北ワンドの魚類相変化

魚類確認種の変化(過去との比較)

調査年 採捕方法	1973年 投網(10回)	1999年 地曳網、投網、夕毛網等	個体数の増減傾向		
			みられない	減	増
1 ウナギ					
2 ヨイ					
3 ケンゴロウブナ					
4 ギンブナ					
5 キンギョ					
- フナ類					
6 ヤリタナゴ			▽		
7 シロヒレタビラ				↘	
8 カネヒラ				↘	
9 イチモンジタナゴ			▽		
10 イタヤンバラ				↘	
11 タイリクバラタナゴ				↘	
12 ハクレン					
13 ワタカ					
14 カワバタモロコ			▽		
15 ハス					
16 オイカワ					
17 カワムツ			▽		
18 モツゴ					
19 カワヒガイ					
- ヒガイ				↘	
20 ヒキツク			▽		
21 タモロコ				↘	
22 ホンモロコ				↘	
23 ザザラ					
24 カマツカ					
25 ツチフキ			▽		
26 ニゴイ					
27 デメモロコ					
28 スゴモロコ			▽		
29 コウライモロコ					
30 アユモドキ			▽		
31 シマドジョウ					
32 スジマドジョウ			▽		
33 ギギ					
34 ナマズ				↘	
35 カワサギ					↗
36 アユ					
37 シラウオ					
38 カダヤシ					↗
39 メダカ				↘	
40 タウナギ					
41 ブルーギル					↗
42 オオクチバス					↗
43 ボラ					
44 ドソコ			▽		
45 ウキゴリ					
46 トウヨシノボリ					
- ヨシノボリ					
47 スマチチブ					
48 カムルチー					
種類数合計	28	29	10	8	4

確認種 ▽:みられなくなった ↘:減傾向 ↗:増加傾向

出典:平成12年度 淀川生態環境調査検討業務

4.2 ワンド・たまり 城北ワンドの魚類相変化

魚類確認種の変化(過去との比較)

調査年 採捕方法	1973年 投網(10回)	1999年 地曳網、投網、夕毛網等	個体数の増減傾向		
			みられない	減	増
1 ヲナギ					
2 ヲイ					
3 ケンゴロウブナ					
4 ギンブナ					
5 キンギョ					
- フナ類					
6 ヤリタナゴ			↘		
7 シロヒレタビラ				↘	
8 カネヒラ				↘	
9 イチモンジタナゴ			↘		
10 イタセンバラ				↘	

見られなくなった魚種

アユモドキ、スジシマドジョウ、ドンコ等計10種

21 タモロコ					
22 ホンモロコ					↘
23 サザラ					
24 カマツカ					

新たに確認された魚種

ワカサギ、カダヤシ、ブルーギル、
オオクチバス

40 タウナギ					
41 ブルーギル					↗
42 オオクチバス					↗
43 ボラ					
44 ドンコ			↘		
45 ウキゴリ					
46 トウヨシノボリ					
- ヨシノボリ					
47 スマチチブ					
48 カムルチー					
種類数合計	28	29	10	8	4

確認種 ↘:みられなくなった ↘:減傾向 ↗:増加傾向

4.2 ワンド・たまり 【城北ワンドの貝類の変化】

貝類の変化 (過去との比較)

		1973年	1977年 1978年	1998年 1999年	個体数の増減傾向			
					みられない	減	増	
巻貝	チリメンカワニナ							
	ナカセコカワニナ		-	-	↓			
	イボカワニナ					↘		
	ハベカワニナ							
	クロダカワニナ			-	↓			
	ヒメモノアラガイ							
	モノアラガイ	-		-				
	サカマキガイ							
	ヒメタニシ							
	マメタニシ	-		-	↓			
	スクミリンゴガイ (ジャンボタニシ)	-	-				↗	
	カワコザラガイ					↘		
	二枚貝	イシガイ						
		ドブガイ						
マルドブガイ						↘		
オグラヌマガイ								
ササノハガイ				-	↓			
トンガリササノハガイ								
マシジミ						↘		
セタシジミ			-	-	↓			
マツカサガイ			-	-	↓			
カワヒバリガイ								
合計	18	17	15	6	4	1		

● : 確認種 ↓ : みられなくなった ↘ : 減少傾向 ↗ : 増加傾向

出典 : 平成12年度 淀川生態環境調査検討業務

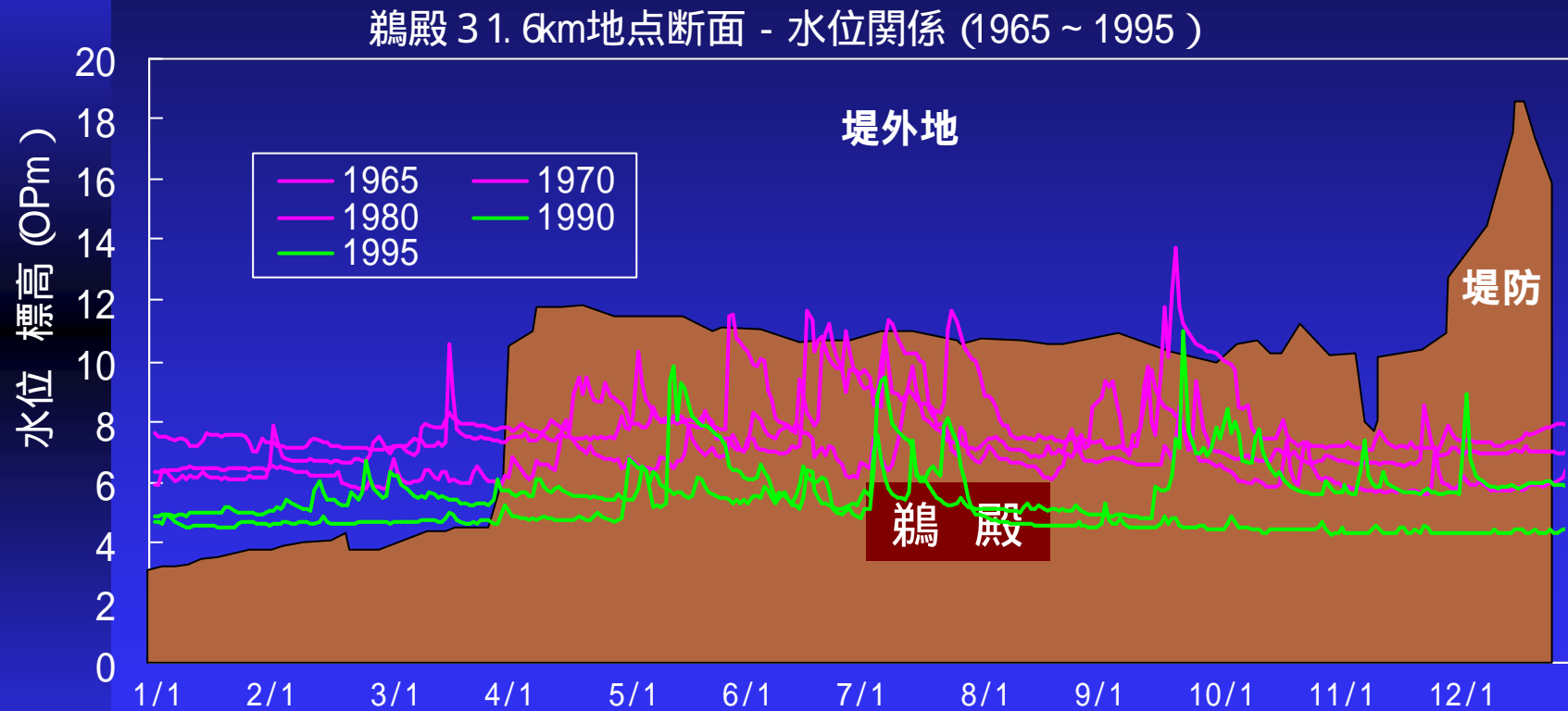
4.3 ヨシ原 【ヨシ原とは】

ヨシ原は淀川では、原野性の植物であり、オオヨシキリ、ツバメ等の鳥類やカヤネズミ等の小動物の他、昆虫類等の**多くの生物の生息環境として重要**です。



4.3 ヨシ原

【低水路改修による冠水頻度の減少】



低水路改修の結果、低水位が低下し、鵜殿の冠水頻度が減少しました。

4.3 ヨシ原 鶺鴒地区の主な 群落面積の変化】



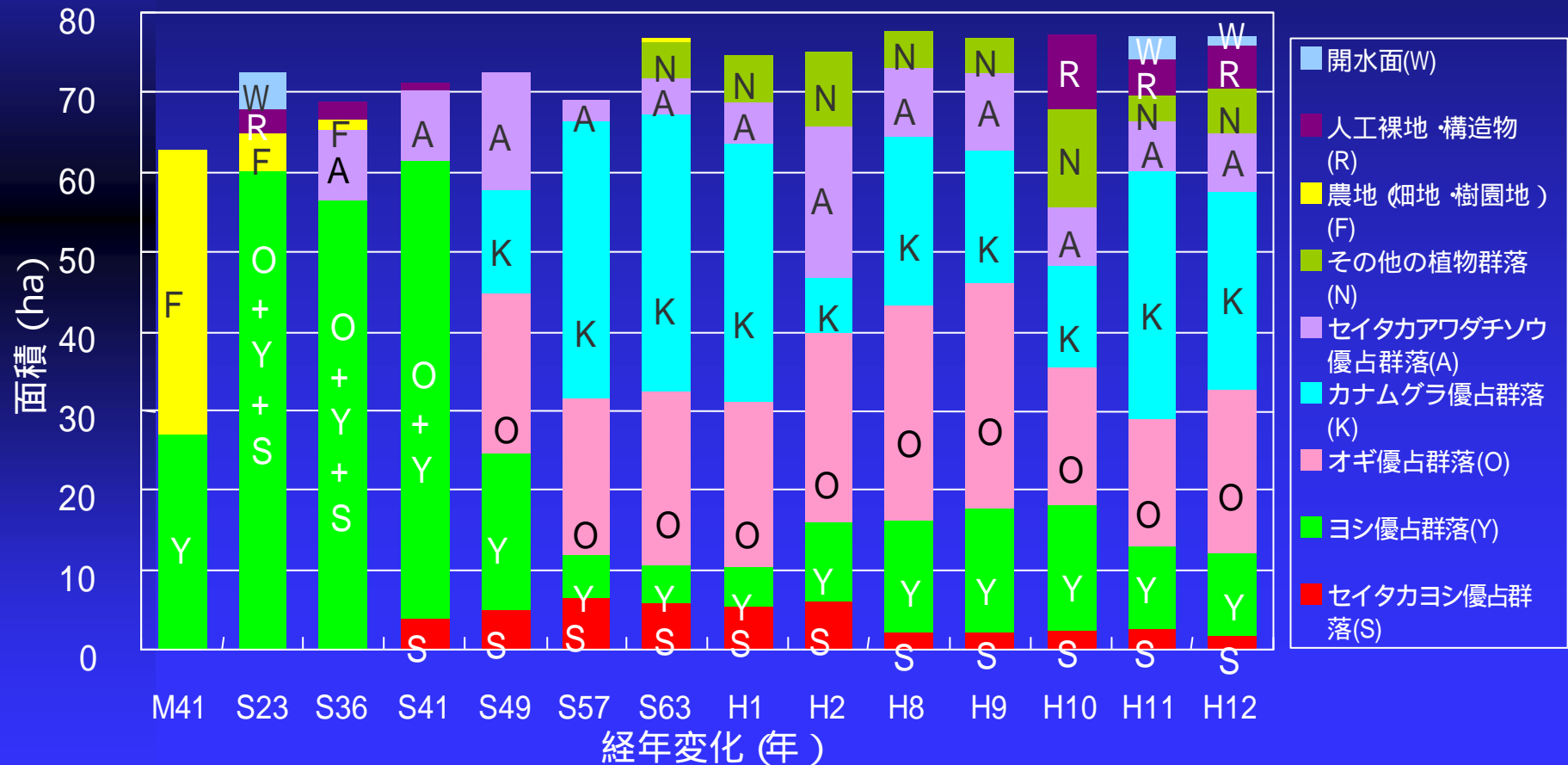
オギ



セイタカ



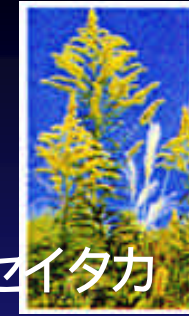
カナムグラ



4.3 ヨシ原 鶯殿地区の主な 群落面積の変化】

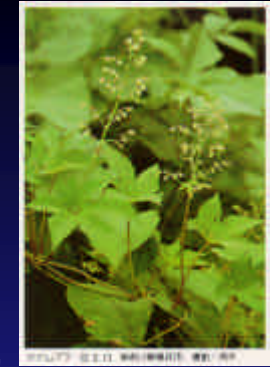


オギ

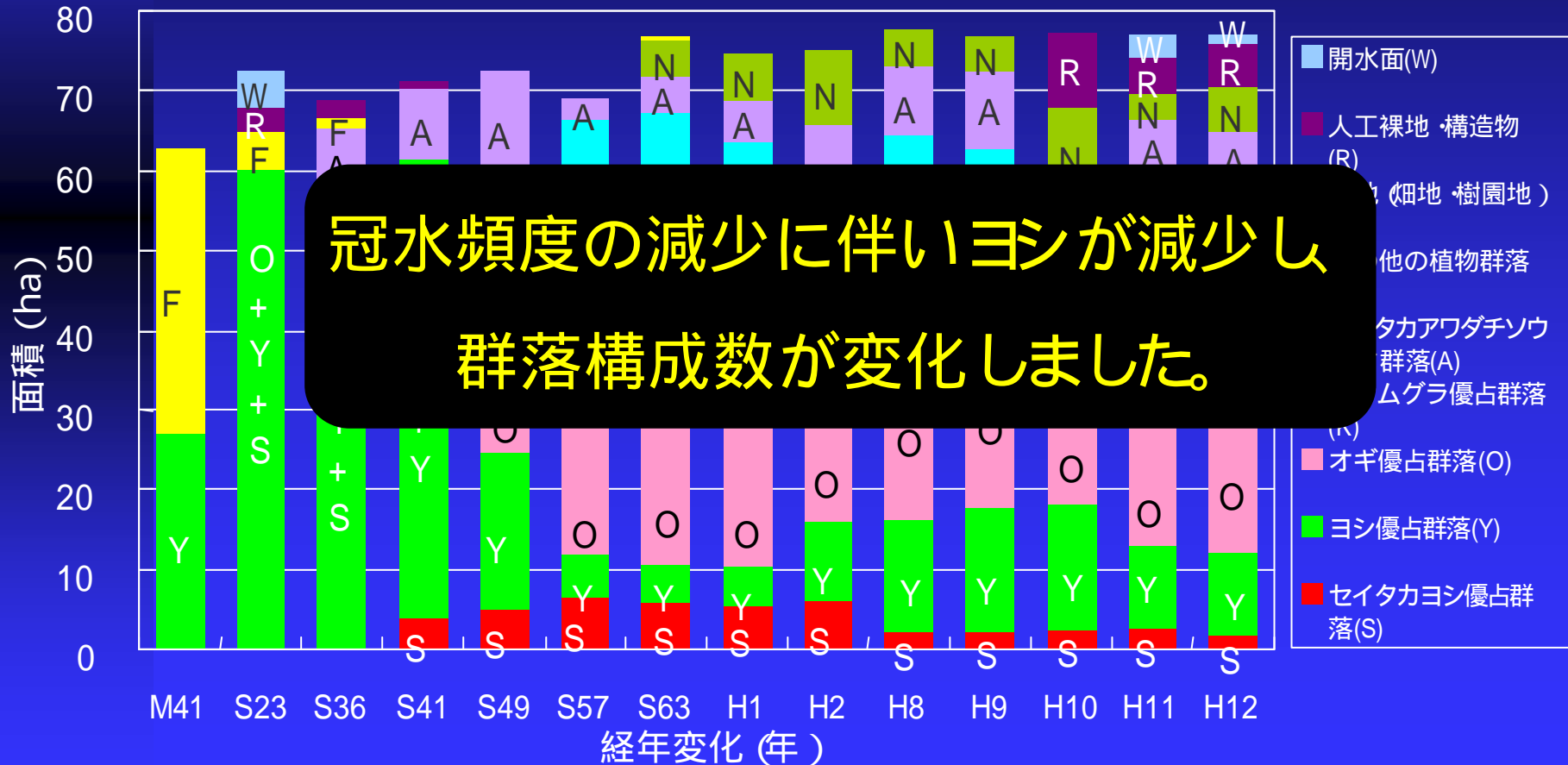


セイタカ

アワダチソウ



カナムグラ



4.4 汽水域

シギ類、カモ類等の干潟を好む鳥類の飛来や耐塩性植物、汽水魚の生息等、特徴的な生物相を形成しています。



5 . 生息環境保全の現状

5.1 ワンドの復元

ワンドの良好な生態系を保全するために、人工ワンドを作って実験している他、実際にワンドの復元を行っています。



5.2 多自然型護岸

宇治川魚巢ブロック



桂川松尾橋下流水制工



この他にも多くの地点で
実施しています。